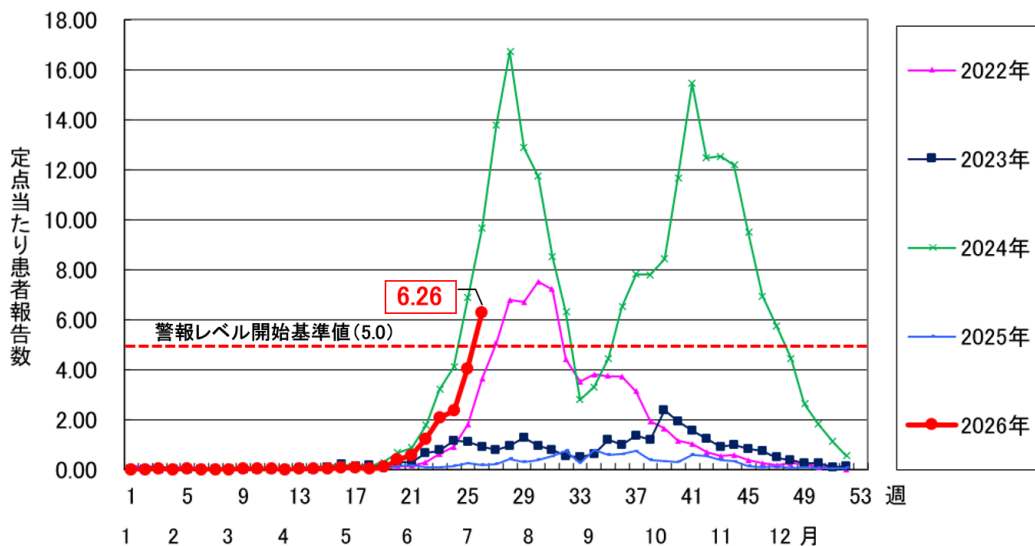


手足口病の流行について

本県では、令和8年第26週（6月22日から6月28日）における手足口病の定点当たり患者報告数が、「6.26」となり、国が定める警報基準値「5」を上回りました。

手足口病はウイルスによる感染症で、主に夏に乳幼児を中心に流行します。現在、県内で大きな流行が発生しているため、家庭、保育所、幼稚園、学校等において手洗いなどの基本的な感染防止対策の実施に努めましょう。

2022年から2026年(令和8年)第26週までの県内の手足口病の定点当たり患者報告数の推移



※ 定点当たり患者報告数とは、各定点において1週間に診断した患者報告数を、報告定点医療機関数で除した数

※ 県が指定した小児科を標榜する診療所等(小児科定点)を定点とし、その定点の医師が、手足口病の患者と診断した場合に保健所へ報告する。

《県民の皆様へ》

手足口病は、エンテロウイルス属のウイルスを原因とする感染症です。発熱や、手、足、口腔内、口唇に小水疱が出るのが特徴で、乳幼児に多い病気です。ほとんどの場合は自然に軽快しますが、ワクチンや特別な治療法はないため、手洗い等の基本的な感染防止対策の実施に努めましょう。

【予防のポイント】

- (1) アルコール消毒が効きにくいいため、流水とせっけんによる手洗いをこまめに行いましょう。
- (2) おむつ交換などの後は排泄物を適切に処理しましょう。
- (3) タオルなどの共用を避けましょう。

【参考】

手足口病とは

1 手足口病とは

手足口病は、主にコクサッキーウイルス A6、A10、A16 や、エンテロウイルス 71 (EV71) などを原因とする乳幼児に多い病気。毎年、夏を中心として発生し、7月下旬に流行のピークを迎えることが多い。

2 症状

- 潜伏期間 3～5日
- 発熱、食欲不振、のどの痛み、水疱性発疹（口の中、手のひら、足底や足背の部分など）

3 感染経路

- 飛沫感染、接触感染
- 咽頭から排泄されるウイルスによる飛沫感染や、便中に排泄されたウイルスによる経口感染、水疱内容物からの感染などが主な感染経路とされる

4 治療

- 特別な治療法はなく、対症療法が行われる
- ほとんどの場合、自然に軽快する
- 高熱が出る、発熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、視線が合わない、呼びかけに答えない、呼吸が速くて息苦しそう、水分が取れずにおしっこがでない、ぐったりとしている、などの症状が強いときは医療機関へ早めに相談する